

# 第三期武蔵野市コミュニティ評価委員会

## 報 告 書

# 第三期武蔵野市コミュニティ評価委員会

## 目 次

はじめに	1
1 評価の目的と流れ	2
1) 武蔵野市コミュニティ評価委員会の役割	2
2) 評価について	2
(1) 評価の目的と視点	2
(2) 評価の対象団体	3
3) 委員会の構成	3
2 評価の方法	3
1) 評価の基準	3
2) 評価の方法	4
3 評価の結果	4
1) 評価の結果	4
2) 協議会個表	5
吉祥寺東コミュニティ協議会	5
本宿コミュニティ協議会	6
吉祥寺南町コミュニティ協議会	7
御殿山コミュニティ協議会	8
本町コミュニティセンター協議会	9
吉祥寺西コミュニティ協議会	10
吉祥寺北コミュニティ協議会	11
けやきコミュニティ協議会	12
中央コミュニティ協議会	13
西久保コミュニティ協議会	14
緑町コミュニティ協議会	15
八幡町コミュニティ協議会	16
関前コミュニティ協議会	17
西部コミュニティ協議会	18
境南コミュニティ協議会	19
桜堤コミュニティ協議会	20
3) 課題解決の見通しと方向	21
今後の評価に向けて	26
議論の経過	27

## はじめに

武蔵野市民のみなさんに、3回目になるコミュニティ評価報告書をお届けします。昨年から今年にかけて、コミュニティ協議会のみなさんによる数年分の自己点検評価表、行政担当部署によるコミュニティ協議会に対するヒアリングの結果、コミュニティセンターの利用者アンケートなどを主な資料として、第三期コミュニティ評価委員会が、コミュニティ協議会とコミュニティセンターの現状を評価しましたのでその結果をご覧ください。

評価の方法について工夫をせざるを得ない部分もありましたが、全体として、指定管理者としてのコミュニティ協議会はコミュニティセンターを適正に管理運営しているとの評価をすることができました。しかし、それで一件落着、すべてがうまくいっているというわけではありません。個々のコミュニティ協議会・コミュニティセンターがさまざまな課題に直面し、その解決への方策を模索していることが明らかになりました。評価委員会から武蔵野市のコミュニティづくりにかかわる課題もこの報告書で示しましたので、これらがコミュニティ協議会だけの課題ではなく広く市民各層にとっての課題であることを知っていただき、その解決に向けても関心をよせていただきたいと思います。

市民がコミュニティ協議会・コミュニティセンターを批判することは大切です。一方、コミュニティ協議会は、利用者や市民からの批判に真摯な態度で耳を傾けることが必要でしょう。しかし、批判する市民、それに耳を傾けながらも解決策が見いだせず苦悩する、時には反発するコミュニティ協議会という、2手に分かれる図式は必ずしもコミュニティの充実にとってしあわせなものではありません。両者、それにもう一つの当事者である行政も加わって、胸襟を開きながら議論できる土壌をつくることが大切なのではないのでしょうか。

ですから、今回の評価とそこから明らかになったさまざまな課題が「市民全体」と行政の課題として認識され、これからのコミュニティをめぐって多様な議論がわき上がって欲しいというのが、私たち評価委員会の切なる願いです。

平成 23 年 12 月

第三期武蔵野市コミュニティ評価委員会  
委員長 江上 渉

## 1 評価の目的と流れ

### 1) 武蔵野市コミュニティ評価委員会の役割

武蔵野市コミュニティ評価委員会（以下委員会という。）は、武蔵野市コミュニティ条例（平成13年12月武蔵野市条例第33号）に基づいており、この間、平成15年3月から第一期の委員会が、平成16年9月から第二期の委員会が設置された。

本委員会の評価活動を介して、各協議会によるコミュニティセンターの管理運営について広く市民に公開することで、より開かれた運営を目指すとともに、今後も、多世代が集い、市民活動の拠点として利用されるよう、各協議会の活動を多くの市民へ周知することを目的とし、客観性、透明性をもって各協議会の取り組みが適切に行なわれているかを確認し、市民施設の運営について市民への説明とする。

### 2) 評価について

#### (1) 評価の目的と視点

本市では、昭和46年に定めた第一期基本構想・長期計画以来、市民自治を掲げ、市民施設のネットワーク計画とコミュニティ構想により、「多世代が集う地域の居場所」、「地域における市民活動の拠点」としてコミュニティセンターを整備してきた。コミュニティセンターは自主三原則（自主参加・自主企画・自主運営）に基づき、それぞれの地域の協議会によって管理運営されており、協議会はコミュニティセンターを拠点に自主活動としてのゆるやかなコミュニティづくりを進めている。

平成17年4月からは、指定管理者制度による指定管理者として各協議会が施設の管理権限を持ち、施設の使用許可等、従来は市長の権限であったものについて協議会による行政処分が可能となった。本制度は、行政による全市域画一的なコミュニティセンターの管理運営を行なうのではなく、指定管理者である各協議会の創意工夫により、地域の住民ニーズに対応し、地域の特性に沿ってコミュニティセンターを運営することができる制度である。市民の満足度を高め、地域の活性化に資することができるとともに、各協議会の自己決定権が広がり、自主性を高める市民自治の要としての面を持っている。

コミュニティセンターにおけるイベント等の個々の活動についてはそれぞれの協議会の自主に委ねている。本委員会においては、コミュニティセンターの必要最低限の管理運営に関する評価基準を定めた。

## (2) 評価の対象団体

下記の16協議会が対象団体である。

- \* 吉祥寺東コミュニティ協議会
- \* 吉祥寺南町コミュニティ協議会
- \* 本町コミュニティセンター協議会
- \* 吉祥寺北コミュニティ協議会
- \* 中央コミュニティ協議会
- \* 緑町コミュニティ協議会
- \* 関前コミュニティ協議会
- \* 境南コミュニティ協議会
- \* 本宿コミュニティ協議会
- \* 御殿山コミュニティ協議会
- \* 吉祥寺西コミュニティ協議会
- \* けやきコミュニティ協議会
- \* 西久保コミュニティ協議会
- \* 八幡町コミュニティ協議会
- \* 西部コミュニティ協議会
- \* 桜堤コミュニティ協議会

## 3) 委員会の構成

評価委員会委員（名簿）

- 委員長 江上 渉（立教大学社会学部教授）
- 副委員長 朝岡 幸彦（東京農工大学大学院農学研究院教授）
- 委員 井波 信一（公募市民）
- 島森 和子（武蔵野市コミュニティ研究連絡会会長）
- 平 廣子（武蔵野市コミュニティ研究連絡会会計）
- 増田 美佐（公募市民）
- 大杉由加利（武蔵野市企画政策室市民協働担当部長）

## 2 評価の方法

### 1) 評価の基準

指定管理者制度の趣旨に則って各協議会が独自の工夫を重ね、地域のニーズに沿った運営をしているかどうかを焦点をあて、下記の項目を基準とした。

#### ① 運営の工夫・利用者(住民)の満足度の向上

- \* 利用者への配慮と適切な対応
- \* 施設の利用方法等の工夫
- \* 新しい利用者・利用団体の増加
- \* 情報の提供
- \* 地域住民や地域団体との連携・交流
- \* 内部の連携
- \* 利用者(市民)からの意見・要望の反映
- \* 活発かつ自由な発言

#### ② 適正な運営

- \* 会則や利用の決まりに沿った公平な運営
- \* 個人情報の保護
- \* 事業計画に沿った運営
- \* 経費削減と予算の適正な執行

#### ③ 施設・設備の管理

- \* 異常時の市への連絡・報告
- \* 訓練の実施
- \* 防火管理者の設置
- \* 備品台帳の確認

## 2) 評価の方法

評価は、①協議会による内部評価、②利用者による外部評価、③事務局によるヒアリング、および④利用状況・実績の4点の総合評価による。

### ①協議会による内部評価（平成17年～22年度自己点検・評価表）

改善への気づきとなることを目的として、自らの活動を振り返り点検をするため、協議会が独自に毎年作成している既存の自己点検・評価表を活用する。

### ②外部評価（利用者調査）

利用者の満足度、意見、要望等を把握し、今後の運営に役立てることを目的として平成21年1～2月に協議会が実施した利用者アンケートを活用する。

### ③事務局ヒアリング

平成23年2月、評価委員会事務局より協議会の代表者にヒアリングを実施した。

### ④利用状況・実績

平成17年度から平成21年度の各コミュニティセンター別・部屋別の利用件数、人数等の集計を参考とした。

## 3 評価の結果

### 1) 評価の結果

評価対象の16協議会の管理及び運営はおおむね適正である。個々のコミュニティ協議会に関する記述は次のとおりである。

コミュニティ協議会の活動が、さまざまな課題を抱えていることも今回の評価作業の過程で明らかになったが、それについては、項をあらためて指摘し、解決への方向性も併せて示すことにしたい。

## 2) 協議会個表

協議会名	吉祥寺東コミュニティ協議会
総括	地道な広報活動と地域の課題の掘り起こしを行うことで、地域住民からの信頼を得るに至っている。一方で、新たに取り組みの始まった若返りプロジェクトなどによって、新たな活動と活動層を開拓し、やりたいことのある人にチャンスを提供することが期待される。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域の問題を住民に広報することで、住民が集まるようになった。</li> <li>* 時間区分等は臨機応変に柔軟に対応している。</li> <li>* 広報誌の内容にはアーカイブ的な価値がある。発行は年4回であるが、独自に掲示板を設置し広報誌以外の広報活動を行っている。</li> <li>* 行事等の開催にあたり近隣の本宿コミュニティ協議会と協力をし、相互に補完し合っている。</li> <li>* 施設は狭隘であるが、居心地の良さとして捉えている。今後も運営に生かす工夫を行う。</li> <li>* 窓口には学生等の若い人が入ることにより、地域に対する愛着につながっていると考えている。その結果、年齢に近い中高生が遊びに来ている。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 情報の公開と公平性の維持に努めている。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 施設の防火管理について、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、防災教育、自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 協議会の活動には外郭環状道路など地域の課題が多く、地域住民にとっては難しい印象がある。そのことがコミセンに気軽に立ち寄ることができない要因になっている、と感じている。開かれて来やすい場所とするために、若返りプロジェクトを立ち上げた。</li> <li>* 個々の自発性を尊重するあまり、運営委員同士でノウハウを伝えることがなく、行事の実施等を企画したい人に対して組織的にケアすることがない。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 利用者のコミセン事業への参加は少ない。</li> <li>* 地域の問題に対して解決の方向へ取り組んでいった。</li> <li>* 利用状況については、高い年間利用率を維持している。団体利用が9割以上を占めている。利用者のうち、コミセンの主催・共催事業に参加している人は2割程度。利用者の居住割合は吉祥寺東町が3割。</li> </ul>	

協議会名	本宿コミュニティ協議会
総括	新しい工夫によって開かれたコミセンづくりをめざし、利用者や運営委員の増加につながっている。地域のニーズを掘り起こすと同時に、新しい施設の特長を活かして、誰もが入りやすいコミュニティセンターをめざすような活動が広がることが期待される。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域の要望を取り入れ新しいイベントを実施したことで、新規の来館者が増えた。特に、子ども対象のイベントの開催は親子連れの利用者の増加に繋がった。</li> <li>* 広報紙を見直し、地域の課題・話題や利用団体を紹介したことで新規の来館者が増えた。</li> <li>* 他団体（あそべえ、青少協、PTA、福祉の会）の行事へ積極的に参加し、連携を図っている。東保育園と連携をし、お泊り保育や餅つき等の事業も行っている。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 数年前からロビー利用者やPTAの方等に声かけをして、運営委員の増員を図り、世代交代を意識している。会議の開催時間を工夫したことで、出席率も向上した。自由な発言、検討ができる場となった。事業終了後には反省会を開き、意見交換をしている。一方で、協力員は増えていない。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 自衛消防訓練、避難訓練、AED操作訓練、館内点検を実施し安全管理に努めている。</li> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、防災教育、自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成している。また、火災発生時の連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 新しい人材による新鮮な発想と今までの経験を合わせ、地域のニーズに沿った運営を心掛ける。</li> <li>* 協力員が増えないため、気軽に参加できる体制が必要であると感じている。</li> <li>* 発想の転換をしながら地域住民との温かい交流を目指し、来館したことがない人へのきかけづくりを図る。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 他の部屋に比べて和室の利用率は低いが、ホールの利用率は9割であり、平成18年度から施設全体の利用件数が伸びている。</li> <li>* コミセン主催・共催の事業に参加している人は5割弱。団体での利用が8割程度。</li> </ul>	

協議会名	吉祥寺南町コミュニティ協議会
総評	開館以来の努力によって地域住民、地域団体、商店街などとのネットワーク的なつながりを築いてきたこと、きめ細やかな広報活動などが特徴である。しかし、担い手層の高齢化や固定化が課題であり、世代交代や新規活動層の開拓が望まれる。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域通貨の実施の際、協力店舗が2軒増えた。コミュニティカフェ等の事業への参加にもつながっている。</li> <li>* コミュニティニュースを毎月発行しているほか、掲示板でのPRも行っている。第三小学校の協力により、ニュースに第三小学校の記事の連携をはじめた。</li> <li>* 利用者からの要望・希望については文書等でいただき、返事を出し、誠実かつ丁寧な対応を心掛けている。</li> <li>* ルールの見直しにより、マナー向上につながった。</li> <li>* 行事の見直しを行い、事業を統合して数を減らした。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 管理運営に関する情報を公開している。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 福祉の会・青少協と地域の防災に取り組み、自主防災組織との共催でコミセンでの宿泊を伴う防災訓練を行っている。施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、防災教育・講習、自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成している。</li> <li>* 施設の安全性の確保、環境の保持について気を配っている。非常時等の対応を窓口・運営委員で共有しているが、共有が足りていないと認識している面もある。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* コミュニティセンターの意義について伝わっていないと感じており、世代交代、若返り、先細りを懸念している。</li> <li>* 市外利用者の対応に苦慮している。</li> <li>* 保護者が就労している子どもの居場所のために年末年始にも長く開館できないか考えている。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 年々利用件数が増加しているが、スタジオや会議室と比較して和室や茶室の利用件数が低い。</li> <li>* 利用者のうちコミセン主催・共催事業への参加は4割程度であり、団体での利用が9割を超えている。</li> </ul>	

協議会名	御殿山コミュニティ協議会
総評	既存の地域団体（町会など）との強い連携が特徴であるが、一方でマンション居住者や単身世帯などとの交流が薄い。今後、地域の拠点として新旧住民いずれにも開かれたコミュニティセンターとする工夫がのぞまれる。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域住民の方々がコミセン事業に参加されるようになったが、依然認知度、関心度は低く、掲示板の新設やマンションへの提示を検討、実施している。</li> <li>* 日赤奉仕団が10名以上運営委員に入っており、青少協、保護司、福祉の会、商店会等とも連携が取れている。</li> <li>* 利用団体を広報紙で紹介することを検討したが、仲間同士で活動している団体が多いためか、掲載を希望する団体が少なかった。</li> <li>* 町会を中心として、商店会、日赤奉仕団、老人クラブ、地域社協、青少協、防犯・防災等と協力をし、盆踊り、秋祭り、子ども対象事業等を実施している。</li> <li>* 館内がバリアフリー対応ではないが、既存の照明を低く設定し直したことで、空間の照度を上げ、利用者に使いやすく工夫した。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 利用者が記載する名簿は、従来全利用者へ氏名、住所、連絡先を記入してもらっていたが、簡略化を図っており、引き続き「入館カード」等の個人利用についても検討を続けたい。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 防災訓練、年末夜警を実施している。</li> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、防災教育、自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域での認知度・関心度が低く、地域住民、特にマンション等に対する事業内容のPRを工夫したい。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 年間利用件数は横ばいである。小規模な和室の利用率が低い。</li> <li>* 利用者のうち、コミセンの主催・共催事業へ参加したことがある人は25%、団体での利用が93%。</li> </ul>	

協議会名	本町コミュニティセンター協議会
総評	1階サロンを利用したイベントの開催など、地域の中に顔見知りを増やす活動をはじめると、新たな工夫が見られる。近隣のマンションには高齢者が多いなど、今後とも地域のニーズを掘り起こしながら、活動と利用者・参加者が広がることに期待したい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 小規模ながらもサロンを活用したイベントを企画、実施した。外から内容が見えることで、気軽に立ち寄りやすい雰囲気をつくっている。</li> <li>* マンションの住民や理事会を通じて広報紙を配布し積極的に呼びかけたことで、新しい方の来館や問い合わせの増加等の成果が表れた。</li> <li>* コミセンだよりを見直し作成方法を変えた。積極的に取材を行っており、商店会とのつながりや地元密着型を意識している。</li> <li>* エレベーターがなくハード面の問題はあるが、年配の方の荷物を運ぶなど、利用者への手助けを行い、常に配慮を心掛けている。</li> <li>* 東部まちづくり協議会との元気市や東部福祉の会とのフェスティバル等を共催で実施。日赤の配食サービスの中継地点や稲荷町会の秋まつりに協力をしている。地域団体からは運営に関わってもらっている。</li> </ul>	
2) 適正な運営	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 事故・急病・忘れ物対策として、すべての利用者に氏名、住所、電話番号を記入してもらっているが、個人情報保護には充分注意している。</li> <li>* 運営方法、行事等について運営委員から常に提案できる仕組みにした。その結果、新しい発想による行事が成功した。今後も事業内容の見直しが必要だと感じている。</li> </ul>	
3) 施設・設備の管理	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、防災教育、自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成し、火災発生時の緊急連絡網を作成している。</li> </ul>	
4) 協議会が活動の中で認識している課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域に限らず運営委員を増やしているが、動ける人材が不足。</li> <li>* 社会が変化している中、協議会としても変わらなければいけないと考えている。人のつながりを手助けできるよう心掛けている。</li> </ul>	
5) その他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 商業地域という地域特性だからこそ、地域の顔が見え、地域住民に利用してもらえるような活動をしていく必要があると考えている。その結果として、高齢者夫婦や単身者の利用が増えた。</li> <li>* 大きな行事を実施するのではなく、小さな行事を無理なく開催することで、地域の顔見知りを増やすという独自の工夫を行なっている。</li> <li>* 和室・茶室の利用率は低いですが、平成18年度から利用件数が増加している。主催・共催事業への参加は17%、団体利用が88%を占める。</li> </ul>	

協議会名	吉祥寺西コミュニティ協議会
総評	福祉の会、地域社協など、福祉関連の団体との連携が特徴であり、これを生かしたさらなるネットワークの拡充が望まれる。また、コミュニティ協議会が地域のコーディネーター的役割をになう努力は続けてほしい。分館については、利用上の工夫を期待する。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運営委員会での意見交換は活発であるが、出席率は5割程度。運営委員会の出席者が固定化している。</li> <li>* 地域住民懇談会を開催した。また、地域住民が利用できる掲示板を館内に設置した。団体同士の交流として、コミュニティ協議会がコーディネーター的役割を担っている。</li> <li>* 防災まつりや健康講座などを吉西福祉の会と共同して活動している。</li> <li>* 地域社協の定例会に出席している。</li> <li>* 落ち葉の堆肥づくり等でPTA、青少協と連携をしている。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運営委員の連絡網を整備</li> <li>* 公平公正を心がけ、窓口担当者・運営委員は情報の共有と同じ認識での行動に努めている。しかし、利用者に対し、誠意ある態度が不足しがちなケースもあった。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 問題が発生した場合は、窓口会議で取り上げ、問題を共有している。</li> <li>* AED設置後は、毎年窓口担当者が講習会を受講している。</li> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、防災教育、自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成し、火災発生時の緊急連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運営委員の高齢化が進む一方、若い世代の積極的な参加が少ない。コミセン活動への大学生、高校生の取り込み。</li> <li>* 地域住民の関心・希望との差があり、地域住民のニーズや意見を十分に汲み取っていない。年1回の利用者アンケートの実施を検討している。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* コミセンまつり、あそぼうよ（一日児童館）、ごみ減量活動に取り組んだ。</li> <li>* 利用件数は横ばいであるが、和室の中でも特に茶室の利用率が低い。</li> <li>* 利用者のうち、主催・共催事業へ参加したことがある人は41%、団体での利用は78%を占める。</li> </ul>	

協議会名	吉祥寺北コミュニティ協議会
総評	地域の諸団体との連携がよく、イベントにも活かされている。運営委員全員が窓口を担当することで課題を共有する努力をしている。一方で、イベント以外にも誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくりへの工夫が欲しい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運営委員会への出席率が9割程度と、大変高い。運営委員全員が窓口を担当しているため、要求や課題の共通認識ができています。一部の人に負担がかからないよう、全員で役割分担をし、平均化している。</li> <li>* 11の地域関連団体と実行委員会をつくり共催して実施している北町さわやかまつりが定着し、地域の諸団体との連携の観点から成果を挙げている。地域住民とのコミュニティづくりのためにロビーで開催しているコンサート事業を行っていることで、新しい来館者が増えた。</li> <li>* 運営委員が窓口を担当し、地域の方々の声を直接把握している。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 窓口での対応には個人差があるため、担当者によって対応が異なることのないよう、ルールを遵守している。重要事項は運営委員会で協議し解決をはかる。利用者の立場に立った対応に努める。</li> <li>* 担当チームをつくり共通認識のもと運営や事業を実施しているが、多忙な時には、担当者間の情報伝達や相互理解が不十分なケースもあった。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、年2回の防災教育及び自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成し、火災発生時の緊急連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 窓口担当には定年制を設けているため、窓口ができる人が少なくなる問題が起こる可能性がある。今まで積極的に勧誘活動を行っていなかったが、今後は運営委員の確保を行っていきたい。</li> <li>* 若い方の参加を促すようなイベントの見直しを検討したい。</li> <li>* 気軽に楽しい居場所づくり、だれでもふらっと参加できる事業に取り組みたいと考えている。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 2階の和室および調理室の利用率が低いですが、全体の利用件数は年々微増している。</li> <li>* コミセンの主催・共催事業に参加したことがある利用者は42%、団体での利用が80%を占める。</li> </ul>	

協議会名	けやきコミュニティ協議会
総評	<p>広く地域にも視野を広げながら、NPO、他のコミュニティ協議会、地域の団体、個人等と多様なネットワークを形成している。こうしたネットワークを活かしながら、地域の課題の解決に向けた活動をつなぐ取り組みを充実させることが期待できる。</p>
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運営委員、協力員は、年代・性別・地域に関わらず申込がある。地域の学生とも円滑に連携している。会議への出席は、少しの時間だけでも良いので、できる範囲での参加を呼びかけている。</li> <li>* ホームページが充実しており、頻繁に更新をしている。</li> <li>* 住民総会への参加者を増やす策として地域住民による講演を実施した。</li> <li>* NPO 市民まちづくり会議とのタウンウォッチング、大野田小・緑町コミュニティ協議会とのどんど焼き、むさしのミニタウンへの支援、町内会のもちつき、近隣公園の手入れ、小径ガーデンなど、多くの方が加わりつながりが広がった。地域のインキュベーター的な存在だと感じている。夏まつりへの大野田小や第四中の先生の参加は、子どもにも大人にも喜ばしいことで、地域の一体感が増した。</li> <li>* 利用者の意見はアンケートを実施しているが交流会や利用者懇談会は実施していないため、利用団体同士のつながりは強くない。</li> <li>* 赤十字奉仕団、老人クラブ、防災協会等、活動団体とコミュニティ協議会の会員は重複しているが、活動のネットワークは十分でない。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 引き継ぎノートを活用しミスをなくすようにしているが、窓口担当者間において、連絡体制が一本化されていない。</li> <li>* 利用者のニーズに沿った臨機応変な対処をしている。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 大野田地域防災の会へ協力している。施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、年2回の防災教育及び自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* ワークショップ形式の活用や、報告事項の簡素化等で話し合う時間を多くしているが、発言者が固定化してきた。</li> <li>* 地域住民の課題を、どの範囲までコミュニティ協議会ができるのだろうかという考えを抱いている。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 館の管理やイベントにおいて、電力節減、CO2問題、エコライフの取り組み、ゴミの資源化、堆肥化、リサイクルなどが通常化している。</li> <li>* 年間利用件数は5割以上を維持しているが、ギャラリーの利用率が低い。利用者のうち、コミセンの主催・共催事業への参加は4割、団体での利用が7割を占める。</li> </ul>	

協議会名	中央コミュニティ協議会
総評	利用者懇談会の開催、窓口対応の迅速化など、開かれたコミセンづくりへの工夫がなされている。事業・運営の見直しや事業数を絞り込むことなどが課題になっているが、その結果、どのようなコミュニティセンターをめざすのかも併せて検討してほしい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 住民利用者懇談会に 70~80 名が参加し、活発な意見交換が行われている。検討した結果はホームページ等で公開している。</li> <li>* 文化祭での展示を地域の団体(学校、テンミリオンハウス、老人会等)に参加してもらうことで連携ができつつあるが、話し合いの機会は少ない。</li> <li>* 施設の予約が先着であるため、早朝 6 時から並ぶ場合がある。抽選も検討したが反対意見が多かった。</li> <li>* 子ども向け、男性向けのイベントへの参加者が少ないと感じているが、こどもスタッフとして小学生が文化祭や夏祭りの手伝いをしてきている。地域防災ミニフェア、子育て支援事業を実施。</li> <li>* 自由に利用できる場所として、中高生向けの卓球台自由開放を月 1 回設けている。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 問題が生じた場合は、運営委員会、窓口懇談会で話し合いをしている。</li> <li>* 窓口担当者が共通の認識を持てるよう、常に連絡を取り合っているため、迅速に利用者からの対応に応じることができる。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 防災訓練を年 2 回実施している。</li> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、年 2 回の防災教育及び自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成し、火災発生時の緊急連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 現段階で支障はないが、運営委員の確保に苦慮している。</li> <li>* 事業、運営の見直し、事業数を減らす。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 中央コミセンについては、茶室を除く大広間等の和室の利用率が他の会議室同等に高い。利用者のうちコミセンの主催・共催事業に参加したことがある人は 41%、団体利用が 82%。中町集会所は、和室よりも集会室の利用が多く、利用者のうちコミセンの主催・共催事業に参加したことがある人は 65%、団体利用が 95%。</li> </ul>	

協 議 会 名	西久保コミュニティ協議会
総 評	夏まつりなどのイベント、子どもの利用など、運営上の工夫がなされている。運営委員どうし、あるいは地域住民も巻き込んだ話し合いの場を充実させて、新たな協力体制をどのような方向でつくっていくのか、今後の検討に期待したい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 課題があった場合の検討の場が不十分であった。</li> <li>* 夏まつりなど大きな行事は地域の団体と協力をして実施した。100名近い方が協力をしてくれる。夏まつり以降、地域と親しくなり、利用者が増えた。</li> <li>* 団体の行事をコミセンだよりに掲載している。</li> <li>* 青少協、福祉の会との連携により多摩湖往復ナイトハイクを実施。</li> <li>* 地元商店会や老人クラブからの協力も得られている。</li> <li>* 若い人の力がなかなか入ってこない。</li> <li>* 年配の利用者からの評価は低い、子どもからの評価は高い。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 公正・公平・民主的な運営と、利用者への配慮を心がけている。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、年2回の防災教育及び自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成し、火災発生時の連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 小中学校との連携と、地域住民による広義の子育て。</li> <li>* 運営委員全員が行事に参加、協力し個々の負担を減らす取り組みを行っているが、事業の実施数や規模に対して運営委員の参加が少なく感じる。例年繰り返している行事が多く、見直しが必要だと考えている。</li> <li>* より自由に発言できる運営委員会と協力体制の構築。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 利用者のうち、コミセンの主催・共催事業に参加している人は38%、団体利用は90%。茶室の利用件数は少ないが、イベントルームをはじめとして会議室や大広間の利用が多い。</li> </ul>	

協議会名	緑町コミュニティ協議会
総評	エコなコミセンをめざすなど、ユニークな発想で活動を充実させてきている。今後は、個人の利用者の居場所づくりなどを工夫することで、若者など新規の来館者がやりたいことができる場としていくことの検討を期待したい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* グリーンパートナーとして、エコなコミセンとして、雨水利用・グリーンカーテン・フリーマーケット等の実施と情報提供をしている。</li> <li>* 協力員にはできる範囲での行事の支援をお願いしており、その結果各事業への参加協力が増えた。</li> <li>* コミセン大掃除の際には日頃コミセンを利用している方々が率先して参加してくれたため、声をかけることが重要だと認識した。</li> <li>* 地域の諸団体との連携の主なもの、緑懇和会・緑町3丁目町会等と合同まちづくりウォッチング、地域通貨の活用による商店会との連携、千川小・大野田小・第四中との交流、大野田福祉の会・千川地域福祉の会への参加、防犯協会との防犯パトロールなどが挙げられる。</li> <li>* 地域で子どもを見守っているため、中学生の行事への参加や学習室の利用が多い。文化祭や地域ふれあいまつりにおいては、ふじの実幼稚園、シルバーピアから作品の展示があり、地域の生きがいとなっている。</li> <li>* 2階へ上がるのが困難な方や和室の利用が不便な方のために、自由来所型の1階ホールの半面を予約可能にしたところ利用者が増えた。ハード面の不便さをソフト面でカバーしている。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 平等に利用できるよう心がけている。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 非常口の表示や、避難経路の確保など、徹底して防災対応をしている。</li> <li>* 大野田福祉の会と自主防災組織を立ち上げ、赤十字奉仕団との防災訓練や炊き出し訓練を実施している。その他、施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、防災教育、自衛消防組織を編成し、火災発生時の連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 窓口担当者の意思疎通</li> <li>* こどもの遊び場、居場所の工夫</li> <li>* 若い世代の方が入ってこない。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域の企業を取り組みたいと考えている。</li> <li>* 利用者のうちコミセンの主催・共催事業に参加している人は42%、団体利用は69%。和室の利用率は低い、音楽室の利用率は高い。</li> </ul>	

協議会名	八幡町コミュニティ協議会
総評	新しいコミセンの建設を前にして、これまでの活動や運営について真摯に見直すことが直近の課題だといえる。新コミセンは、多くの事例に学びながら、これまでにないようなユニークな管理運営をめざし、新規の活動層を開拓してほしい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* コミセンまつりでは、地域団体活動の発表の場である「地域展示」に約20団体が参加しており、1、2団体が増えている。</li> <li>* 千川小の盆踊り大会、社会福祉協議会の安心安全イベント、青少協のどんど焼き等に参加している。</li> <li>* 地域社協、防災訓練等の手伝い、実行委員会への協力など、少しずつではあるがつながりができているが、連携や共催などは十分でないと感じている。</li> <li>* ハード面では施設使用が不自由であるが、高齢者等の荷物を持ち部屋へ案内をするなど、ソフト面で利用者への配慮をしている。</li> <li>* 地域団体のリーダーとともに新八幡町コミセン建設準備委員会を立ち上げた。</li> <li>* 大きな事業は実行委員会形式により、運営委員の役割分担をし、自主性を発揮できるよう配慮している。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 施設の空き状況に応じて臨機応変に対応している。</li> <li>* 規約等に則って適正に運営している。</li> <li>* 会議での発言が少なく、欠席者がいる。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、防災教育を実施し、自衛消防組織を編成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運営委員・協力委員・役員が増えない。</li> <li>* 運営委員の達成感の共有が十分とは言えず、役員・窓口の相互理解と協力体制も十分ではなかったと感じている。</li> <li>* 新コミセンの建設の過程で運営体制の確立を図る。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 利用者のうち、コミセンの主催・共催事業に参加している人は39%、団体利用は94%。2階和室の利用率が低い。</li> </ul>	

協議会名	関前コミュニティ協議会
総評	あいさつ運動や学校との連携など、これまでの活動の実績を基礎にして、地域のニーズを拾い上げて掘り起こして、新たな事業の枠組みを作り上げてほしい。また、地の利を活かして気軽に立ち寄れるコミセンとする努力にも期待したい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 小学生等の子どもや高齢者の利用が多い。挨拶運動の実施、子どもの待ち合わせ場所、ムーブスの待ち利用など、気軽に入りやすい環境である。</li> <li>* 音楽室の利用は2時間に制限し、利用者数の拡大を図っている。</li> <li>* 関前南小・東学園との連携、地域社協・あそべえ・青少協との共催事業を実施している。呼びかけがあった事業については参加・取組をしているが、自主的なネットワーク化はほとんど行っていない。しかしながら、関前南小あそべえとの共催で実施している関前子ども劇場は地域に根付いた活動となった。</li> <li>* 利用者懇談会へ利用団体からの参加を依頼し、意見を汲み取っている。会議室を2分割して貸し出しを行うなど、ニーズを運営に反映している。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 窓口担当者会議を実施し苦情等の解決に努めていることが、対応の向上につながっている。窓口での来館者に対する挨拶、公正・公平な対応を心掛けている。</li> <li>* 総会では利用状況を公開している。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 利用者の安全・安心に注意を払っている。防災訓練を実施している。</li> <li>* 高齢化に伴い、和室の利用件数が減少している。</li> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、年2回の防災教育、自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成し、火災発生時の連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運営委員の不足や事業実施の負担が一部の運営委員にかかっており、事業の見直し、運営委員・協力員の確保が課題としてあげられる。</li> <li>* 行事を担当グループ制にしており自由に企画し実行しているが、担当以外の行事に関心なケースもある。</li> <li>* 若い世代への広報として有効であるホームページの更新。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域性にあったコミセンづくりに取り組んだ。青少協・福祉の会・小中学校との連携による子ども・高齢者向けの行事を実施した。</li> <li>* 利用者のうち、コミセンの主催・共催事業に参加している人は51%、団体での利用は84%。和室の利用率が低い。</li> </ul>	

協議会名	西部コミュニティ協議会
総評	利用の実態に合わせて会則を改正するなどの工夫によって利用者増をはかっている。また、団体間の連携、ネットワークが充実してきている。今後は、団体利用の充実だけではなく、個人が気軽に立ち寄れるコミセンをめざした工夫も進めて欲しい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 行事への参加を利用サークルに呼びかけたことで、つながりが生まれ、様々な連絡が伝わるようになった。利用団体の登録を開始し、今後はホームページでの団体紹介や館内での掲示を考えている。利用者からの意見を反映し団体による懇談会を実施した。団体間のネットワークづくりやコミセンセミナーによる団体との連携づくりをはじめている。</li> <li>* 利用しやすくなるよう使用のきまりを改定して予約方法を緩和した。会則等の見直しを引き続き行い、実際の運営に生かしていきたい。</li> <li>* 小学校 2 校・PTA・青少協・児童館・保育園 2 園・幼稚園・中学・高校・大学・老人会・地域社協等、幼稚園児から大人まで。ふれあいまつりなどの様々な行事に参加している。中高生の利用が多いことで活気に溢れている。2 地域社協との連携を立案、計画中である。</li> <li>* 広報活動に力を入れ、広報紙の配布枚数を増やしたこと、市報のコミセン欄を活用していることが、利用者の増加につながっている。個人（家族）での来館や、引っ越して来た方からの問い合わせが増えた。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 主催教室等の主催事業について、回数や内容などの見直しを図っている。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 防犯市民パトロール隊がコミセンを出発点としている。</li> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、年 2 回の防災教育を実施し、火災発生時の連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* マンションや団地へのアプローチ。</li> <li>* 運営委員会への出席率が低く、活動が役員と一部の運営委員に集中する傾向がある。組織運営の意識が弱く、役員と窓口担当者間のみの連絡になることもある。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 乳幼児連れの方の和室の利用が増えてきており、今までの利用方法と変わってきている。</li> <li>* 利用者のうち、コミセンの主催・共催事業に参加している人は 49%、団体として利用は 68%。茶室の利用率が著しく低く、視聴覚室が最も利用されている。</li> </ul>	

協議会名	境南コミュニティ協議会
総評	運営上の課題を拾い上げ、議論を重ねて種々の改革が進んでいる。今後は、個人でもふらりと寄ることのできる開かれたコミセンをめざし、地域住民のコミュニケーションの場となるようなアイデアを工夫して欲しい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* コミセンの文化祭ではなく地域の文化祭として手法を変えたことで、幼稚園児から大学生、100歳の方に至るまで、参加の輪が広がった。</li> <li>* 体育館の利用において、子どもが使いやすいように改めた。</li> <li>* 各地域社協の活動の記事をコミセンだよりでシリーズ化した。利用者同士が繋がっていくことを意識している。商店会との連携は不十分だと感じている。小中学校の取り組みを手伝っている。</li> <li>* 従来、各丁目から運営委員に入っていたが、自由に加入できる枠を設けたことで若い世代の加入があった。若い方の発想を生かし、新しい企画に積極的に取り組んでいる。会議への出席率は高いが、特定の人の意見が強く出され総意に至っていない場合もある。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 予算の行使については毎月の定例運営委員会で詳細を説明し、かつ年2回の会計監査を受けている。</li> <li>* 年間の日程管理が不十分な点、窓口業務等に効率的でない点、役員・窓口・運営委員間の連携が円滑でない点が挙げられる。</li> <li>* 窓口対応については臨機応変に対応しており来館者同士が心地よく利用できることを心掛けている。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 防災訓練、赤十字奉仕団との救急対策の実施。</li> <li>* 施設の公平な利用が十分にできた。</li> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、年2回の防災教育及び自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成し、火災発生時の連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 利用しない方の意見をどのように聞き取るか。</li> <li>* 利用申し込みを簡素化するための規約改定の実施。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域住民に最大限利用してもらい、利用を通して地域のコミュニケーションの輪に広がっていくことができるよう取り組んでいる。境南地域よりも地域を広げた取り組み、さらに広い視野を目指す。</li> <li>* 利用者のうち、コミセンの主催・共催事業に参加している人は62%、団体利用は84%。利用件数は平成17年度以降減少していたが、平成21年度は増加している。</li> </ul>	

協議会名	桜堤コミュニティ協議会
総評	利用者の要望を取り入れて施設の利用を工夫し、改善をおこなうなど、利用者との距離を縮めようとする工夫が見られる。コミセンと利用者、利用者同士などが、情報交換できる機会を増やしてより使い心地のよいコミセンづくりを考えてほしい。
自己点検評価表、利用者アンケート、ヒアリング、利用状況・実績の概要	
<p><b>1) 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運営委員会には毎回 9 割の参加があり、活発な意見交換が行われている。新しい運営委員も加わっているが、コミセンに関わることから地域に入ってもらえるよう、若い人に参加してもらいたい。</li> <li>* 地域諸団体との連携により、夏まつりに約 900 名の参加があった。青少協等多くの団体との共催でどんど焼きを実施している。</li> <li>* 子どもの利用が多い。</li> <li>* 集合住宅への広報紙の配布、防犯協会の掲示板の活用、町会回覧板にチラシを入れてもらうなど、広報活動を行っている。</li> <li>* 利用者の声を反映し、和室の利用が困難な方や少人数のグループにも気軽に利用できるように 2 階和室に絨毯を敷き、テーブルとイスを設置した。ハード面の難しさはあるが、ソフト面で工夫を重ねている。</li> <li>* 行事は実行委員会方式であり、企画の段階から意見を出し、自主性を重視している。行事終了後には、ホームページや広報紙を通じて報告を行っている。</li> </ul> <p><b>2) 適正な運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 住民総会で情報を開示し、運営委員会での報告も行い、適正な運営に努めている。各担当の責任者を決め、組織全体で活動できる。</li> </ul> <p><b>3) 施設・設備の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 防災訓練の実施、館内の整理整頓に気を配り、安全安心に努めている。</li> <li>* 施設の防火管理については、日常自主点検、定期自主点検、放火防止対策、防災教育、自衛消防訓練を実施し、自衛消防組織を編成し、火災発生時の連絡網を作成している。</li> </ul> <p><b>4) 協議会が活動の中で認識している課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 利用者懇談会は年 1 回行っているが、利用団体へのヒアリングは未実施であり、個別に実施することを検討している。地域住民の意見を聞く機会を増やす工夫を重ねたい。</li> <li>* 来ていない人の声をどのように聞くか。誰もが多目的に利用できることの周知が不十分であったと感じている。</li> </ul> <p><b>5) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 来館者に気持ちよくコミセンを利用してもらえるよう、親切な対応と家庭的な対応を心掛けている。多くの地域住民が参加する行事は充実したものとなり、好評を得ている。</li> <li>* 利用者のうちコミセンの主催・共催事業に参加している人は 65%、団体での利用は 77%。2 階和室の利用率が低いが運用面でカバーしている。</li> </ul>	

### 3) 課題解決の見通しと方向

16のコミュニティ協議会は、それぞれ工夫を凝らしながら、コミュニティセンターを拠点としてコミュニティ活動の実践を行っている。さまざまなイベントの開催をはじめとする活動内容には、個々の協議会の特色が表れている。こうした協議会の個性が生まれるのは、各協議会が独自に活動内容を企画・立案してきた成果である。

また、単にイベントなどの企画・立案に工夫を加えるだけではなく、近年の協議会活動にみられるようになった特色として、地域コミュニティのあり方、コミュニティ協議会のあり方、コミュニティセンターのあり方など、コミュニティづくりの前提となる諸条件を協議・検討していることが挙げられる。その成果から、協議会の組織や活動の改革に取り組むことも行われている。毎年実施される自己点検評価とは別に、自らの活動を振り返り、見直していく試みは高く評価できる。

次に、今回の評価作業の過程で明らかになってきたのは、「つなぐ」というキーワードで表現されるコミュニティ協議会内部の、あるいはコミュニティ協議会間の取り組みである。

協議会内部では、地域住民や利用者との懇談会を開催して連絡調整などに工夫がみられ、地域で活動する他の団体との連携を進める動きも顕著である。いわばコミュニティ協議会あるいはコミュニティセンターが、地域住民や地域の団体を「つなぐ」役割を自覚し、地域のネットワークの要となるように努力している。

一方、コミュニティ協議会間を「つなぐ」努力もある。複数のコミュニティ協議会が連携して、コミュニティづくりに関わる地域のニーズを共有する、イベントを共催するといった試みである。

以上のように、各コミュニティ協議会は、自主三原則に基づきながらも、独善に陥ることなく、今後とも地域のコミュニティづくりに努力されることを期待したい。

しかしながら、今回実施した一連の評価作業から、コミュニティ協議会やコミュニティセンターにかかわるいくつかの課題が発見された。ここでは、その課題の内容を示し、その解決のための方向性を評価委員会から提案したい。

抽出された課題は大きく分けて次の3つである。

- (1) コミュニティ協議会の担い手に関する課題
- (2) さまざまなネットワークづくりに関する課題
- (3) コミュニティ協議会の説明責任と評価に関する課題

## (1) コミュニティ協議会の担い手に関する課題

コミュニティ協議会の運営委員など協議会の担い手層の新規参加が少ないこと、および年齢構成が高齢者に偏っていることは、以前からしばしば指摘されてきた。今回の評価作業を通じても自己点検評価表やコミュニティ協議会へのヒアリングによって、古くて新しい問題としてピックアップされた。

新たな運営委員の参加など、組織運営の新陳代謝を促進することは、健全なコミュニティ協議会にとっては重要であることは論を待たない。しかし、その方策となるとなかなか有効な処方箋がないのも事実である。実際に、多くの協議会が新たな運営委員の参加のために努力しているにもかかわらず実効をあげていると言い難い状況が長く続いてきた。

こうした状況を少しでも改善するためには、単に「新たな運営委員の参加をいかに促すか」という課題を設定するだけではなく、協議会の運営委員の人数・年齢構成・役割などについて、多少なりとも発想の転換をして、現実に即したリクルート戦略を練っていくことが必要であるように思われる。

まず、運営委員の人数であるが、従来、規約等で定めている人数が活動にとって必要にしてかつ十分な人数であるのか、点検が必要である（逆に、現状の人数で可能な活動はどのようなものなのかと考えるという手もある）。また、これと同時に運営委員の役割についても検討が必要である。運営委員がコミュニティ協議会においてどのような役割を果たすのか、そのためには何名ほどの運営委員を必要とするのか、あらためて検討することが求められよう。この場合に、「運営委員の役割」についても、新しい発想で検討してみてもどうか。たとえば、これまでは「運営委員はコミュニティ協議会の管理運営において重責を担う」という発想が支配的であったが、それでよいのかと一度、振り返ってみるのもよいだろう。運営委員をやってみたいと思う人が尻込みしてしまうような「重責」を課すのではなく、もっと気軽に引き受けることのできるような役割の分担の仕方などを考案することができるかもしれない。

さらに年齢構成についても、よくいわれる「若い人」とは、どのような年齢層を指しているのか、活動を充実させるために必要とされるのはどのような年齢層なのか、考える必要がある。それは、単に幅広い年齢層を充実させるということだけでもないだろう。生活上のさまざまなニーズを掘り起こしたり、豊富なアイデアをもつ可能性の高い世代、たとえば子育て世代、青少年、高齢世代など、コミュニティ協議会の活動を通じてみずからの生活上のニーズも解決する指向性をもつ世代が、もっとコミュニティ協議会の中心的な担い手として増えてもいいのだろう。

コミュニティ協議会の運営委員など、活動を担う層をいかにリクルート

していくかという課題について、1点、付言しておこう。運営委員の募集などにあたっては、どの協議会も「誰でも運営委員になることができます」という看板を掲げている。しかし、本当に誰でも運営委員として受け入れていく姿勢をもっているのか、この点は確認が必要である。「地域の居住者かどうか」といった条件ではなく、協議会側が「このような人に来て欲しい」といった運営委員像を何気なく抱いて、それにあてはまらない人は歓迎しないという傾向がないだろうか。コミュニティ協議会は、地域の多様な価値観をもった人が集い、それを話し合いの場などでぶつけ合いながら、合意点を見出していくという営みを実践する場であろう。あらかじめ協議会が求める「型」に合致する人を募集するような姿勢は、厳に慎まなければならない。こうした閉鎖性が、地域住民をコミュニティセンターから遠ざけているのかもしれないという問題意識を持つ必要がある。

また、新しく参加した運営委員などが、短期間で退任していくケースはないだろうか。もし、そのようなことがあるならばその理由・原因は何なのか、考察してみたい。コミュニティ協議会で、やってみたいこと、できることをやろうという意欲をもって新たに運営委員として参加したものの、それが旧来からの「慣行」にそぐわないために協議会内で受け入れられず、運営委員としての意欲をそがれてしまうなどといったことがないようにしたい。

コミュニティ協議会は、地域住民に対して「何かをしてあげる」団体という発想から、「地域住民が地域に対して何かをする機会を提供する」とか、「地域の人ができることをやってもらう」ことをコーディネートする役割を担っているという発想に変えてみることはできないだろうか。こうすることで、コミュニティ協議会がある種の重荷から解放され、逆に地域住民は気軽に協議会の活動に参加できることになるのではないだろうか。

## (2) さまざまなネットワークづくりに関する課題

コミュニティ協議会は、コミュニティセンターを拠点として活動しながら、その実績を積み上げてきている。

しかし、その実績がコミュニティセンターを貸し館として市民に提供することと、コミュニティ協議会が主催するイベント等で人集めをすることに偏りがちであることも指摘できる。コミュニティ協議会がコミュニティセンターを「拠点」としながら、まちづくりに貢献するとはどのようなことなのだろうか。コミュニティ協議会の課題として考えておく必要がある。

まず、コミュニティ協議会・コミュニティセンターは、地域の核ということか、地域での人と人の関係の結節点だということを確認しておきたい。で

は、コミュニティセンターがそのようであるために、どのような課題があるのだろうか。今回、抽出されたのは、第1にはさまざまなネットワークづくりの課題、第2には、マンションなど集合住宅の住民と一戸建て住宅の住民との交流の課題である。

はじめに「さまざまなネットワークづくり」についてである。この内容はさまざまである。ネットワークは「何と何のネットワーク」かが問われるが、たとえばコミュニティ協議会とコミュニティ協議会のネットワークは一定程度形成されてきている。複数の協議会が共同での事業を実施すること、協議会メンバー同士が交流の機会をもつことなどもある。いま課題となっているのは、こうした協議会どうしの（ある意味で公式の）ネットワークというよりは、コミュニティ協議会とは多少なりとも性格の異なる団体とのネットワーク、そしてコミュニティセンターを結節点とする「人と人のネットワーク」ではないだろうか。

コミュニティ協議会とさまざまな団体とのネットワークとしては、地域社協・福祉の会、地域の小中学校、青少協、PTAをはじめ数々の地域団体とのネットワークがあり、これは充実してきているが、ますますの連携が求められているし、コミュニティ協議会が仲介役となって団体間のネットワークの充実がはかれる必要もある。まさしく地域団体の網の目（ネットワーク）の形成を目指したい。また、NPOなどあらたな市民活動団体との協力関係やネットワークもこれからますます重要度を増していくに違いない。中間支援施設・団体の力を借りながら、コミュニティ協議会も新規の市民活動団体との接点を増やしてほしい。

さて、ネットワークづくりの最後は「コミュニティセンターを結節点とした人と人のネットワーク」である。もちろん、これについてもコミュニティ協議会が実績を重ねてきていることはいうまでもない。しかし、地域社会での人と人の関係の分断と孤立がますます進行している今日、「人と人のネットワーク」をつくることの意味は非常に重要になっている。第6期コミュニティ市民委員会の報告にもあるように、地域社会で「人と人のネットワーク」「人と人の関係」をいかに構築することが出来るかが、コミュニティづくりの大きな課題である。そのためにも、個人でも「ふらりと立ち寄れる」コミュニティセンターが必要だし、そうして立ち寄った人たちを「つなげる」というコーディネート機能がコミュニティセンターに期待されるのである。また、さまざまなイベントについても、それが参加者どうしをつなげることができているのかどうか、いま一度点検が必要である。

まちづくりに関する2つ目の課題として、マンションなど集合住宅の住民と一戸建て住宅の住民との交流がある。コミュニティ協議会からは、マ

ンションなど集合住宅の住民はとかくその中だけで交流し、あるいは集合住宅内での交流の機会ももとうとせず、周辺の住民と交流が行われにくいといったことを耳にすることが多い。武蔵野市をはじめ、近年になってマンション形式の住宅が増えた地域では、「マンションの住民が地域活動に参加しない」と考えがちであるが、集合住宅の居住者にも、地域に対して関心が高い方が多い。共に同じ地域社会を構成していると考え、また集合住宅特有の課題に地域全体で取り組む姿勢をもつことなどが要請されよう。分譲の集合住宅の場合には管理組合に働きかけるなど、コミュニティセンターの利用などの機会を捉えてコミュニティ協議会側からのアプローチも必要だろう（実際に、そうしたアプローチが成果を生んでいる例も多い）。

### （３） コミュニティ協議会の説明責任と評価に関する課題

今回の評価委員会による評価も、コミュニティ協議会がその説明責任を果たすことの一環をなしているし、毎年実施してきた自己点検評価も同様である。しかし、コミュニティ協議会が市民に対する説明責任を果たすのは、こうした狭い意味での「評価」の機会ばかりではないことを確認しておきたい。

従来は説明責任を果たす機会とは考えられていないことが多かったが、コミュニティ協議会の広報活動も市民に対する説明の機会だと捉えることができるのではないか。広報紙やホームページなどを通じた広報活動が情報提供の活動であることはいうまでもないが、それと同時に、コミュニティ協議会の活動を市民に開示する場ともなっているのである。

また、同時に広報活動に対する市民各層からの反響は、コミュニティ協議会への市民からの評価という側面をもつことになるだろう。

## 今後の評価に向けて

本市のコミュニティ評価として3回目にあたる今回の評価は、これまでの評価とは異なる条件のもとで行わざるをえなかった。それは、コミュニティセンターへの指定管理者制度の導入にともなって、各コミュニティ協議会が指定管理者としても評価されるということである。

地方自治法の改正(平成15年6月)によって制度化された指定管理者制度は、平成17年4月から本市の各コミュニティセンターに導入されている。この制度は「多様化する住民ニーズに、より効果的に対応するため民間事業者の能力やノウハウを幅広く活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに経費の縮減等を図ること」を目的とするものである。とはいえ、コミュニティづくりと館の管理・運営に加えて、基本協定及び年度協定によって義務付けられた計画書・報告書の作成と管理費用等に関する取り決め、さらにモニタリング調査の実施は、指定管理者となるコミュニティ協議会にこれまでにない負担を強いるものでもある。こうした状況のもとで本市が「コミュニティセンターは、その施設設置目的を考慮すると、管理運営を行う団体を特定すべき施設であるため、非公募で候補者を選定します(指定期間は5年)」としていることは、評価において重要な要素である。また、コミュニティセンターへの指定管理者制度の導入を規定するコミュニティ条例第9条3項にも、「指定管理者に指定された公共的団体は、市民が自らの意思で参加し、自ら企画を立て、自ら運営するという自主三原則に基づき、コミュニティセンターを活動拠点としてコミュニティづくりを行う」と明記されている。

つまり、他の「公の施設」の指定管理者とは異なり、コミュニティづくりの主体としてのコミュニティ協議会の役割が積極的に評価される可能性がある。今回の評価は、「指定管理者」としての評価とともに「コミュニティづくりの主体」としての評価を同時に行うものとならざるをえないものであった。これは評価の対象となる目標の立て方において、ダブル・スタンダードを求めるものとなる。指定管理者としての評価には指定期間(5年間)で達成すべき目標が明示されるのに対して、コミュニティづくりの主体としての評価には理想(地方自治の本旨)に向かって努力を惜しまない姿勢そのものが目標となるからである。

したがって、コミュニティづくりの主体としてのコミュニティ協議会の評価は自己評価を基本とし、そこに見出される課題解決の方向性を第三者評価として提示することで、住民主体のコミュニティづくりを支援するものとなった。まさに「コミュニティづくりは、市民が自己の責任において行動し、互いの立場を尊重しながら自発的に交流することを通して、開かれたネットワークをつくりあげていく」というコミュニティ条例の基本理念を具体化しようとするものである。「評価のための評価」とならないためにも、評価にともなう現行制度や政策の見直しに積極的に取り組むことが求められている。

## 議論の経過

評価委員会の議事録、検討資料等につきましては武蔵野市ホームページ及び市政資料コーナーにて閲覧することが可能ですので、ご参照ください。

日時・場所	評価委員会
平成 22 年 10 月 29 日 午後 3 時～ 場所：武蔵野市立か たらの道の 市民ス ペース	第 1 回委員会 1 開会 （1）委嘱状交付 （2）市長挨拶 （3）委員自己紹介 （4）事務局紹介 （5）正副委員長選出 2 議事 （1）評価委員会の運営について （2）武蔵野市のコミュニティセンターとその 運営について （3）第一期、第二期評価委員会の報告について （4）評価の視点とスケジュールについて （5）意見交換 3 その他 4 閉会
平成 22 年 11 月 29 日 午後 2 時～ 場所：武蔵野市役所	第 2 回委員会 （1）評価の方法について （2）意見交換
平成 22 年 12 月 3 日、 平成 23 年 1 月 6 日	各協議会へ評価方法の説明
平成 23 年 2 月	全協議会へのヒアリングを実施
平成 23 年 4 月 28 日 午後 2 時～ 場所：武蔵野市役所	第 3 回委員会 1 開会 2 議事 （1）経過報告 （2）協議会へのヒアリングの報告 （3）評価の作成方法について （4）スケジュールの確認 （5）意見交換 3 その他 4 閉会

<p>平成 23 年 6 月 10 日 午後 6 時～ 場所：武蔵野市役所</p>	<p>第 4 回委員会 1 開会 2 議事 （1）各協議会の個表について （2）報告書の構成について （3）意見交換 3 その他 4 閉会</p>
<p>平成 23 年 6 月 27 日 午前 10 時～ 場所：武蔵野市役所</p>	<p>第 5 回委員会 1 開会 2 議事 （1）個表の総評について （2）報告書の目次案について （3）意見交換 3 その他 4 閉会</p>
<p>平成 23 年 7 月 22 日 午後 6 時～ 場所：武蔵野市役所</p>	<p>第 6 回委員会 1 開会 2 議事 （1）報告書（案）について （2）総評について （3）意見交換 3 その他 4 閉会</p>

第三期武蔵野市コミュニティ評価委員会報告書  
(平成 24 年 1 月)

発行・編集

武蔵野市企画政策室市民協働推進課

〒180-8777

東京都武蔵野市緑町 2-2-28

電話 0422-60-1830 (直通)

